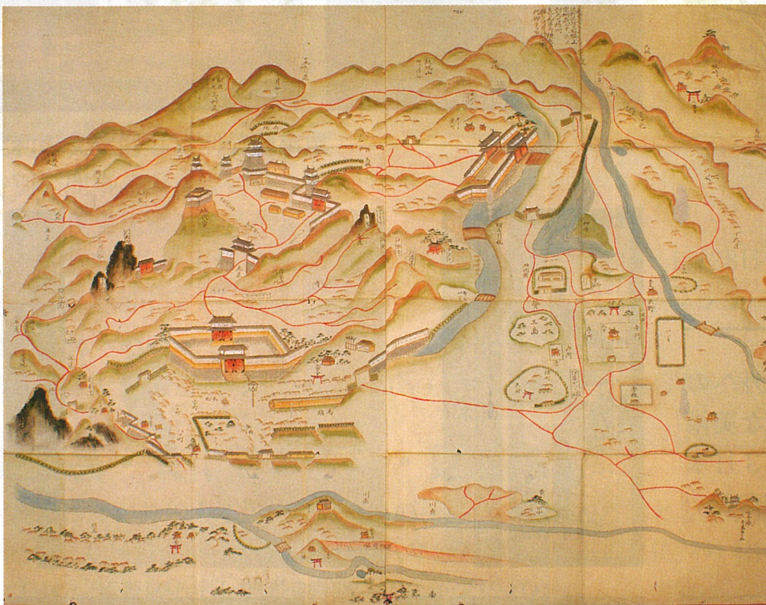


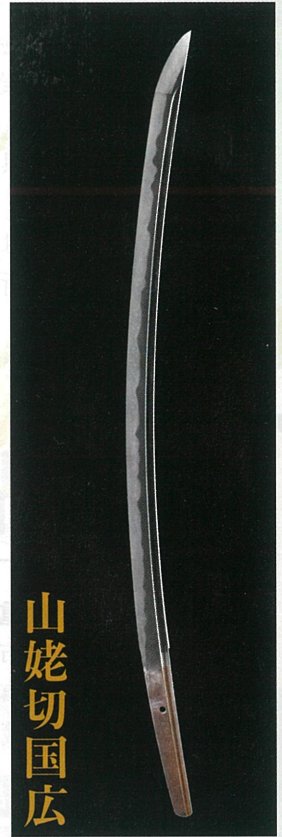
発 行

公益財団法人 足利市民文化財団
栃木県足利市本城3-2145
(足利市教育委員会事務局文化課内)
電話 0284-20-2229

足利ゆかりの国広の名刀 「山姥切国広」と「布袋国広」



◀長尾但馬守居城之図
(大祥山長林寺蔵)



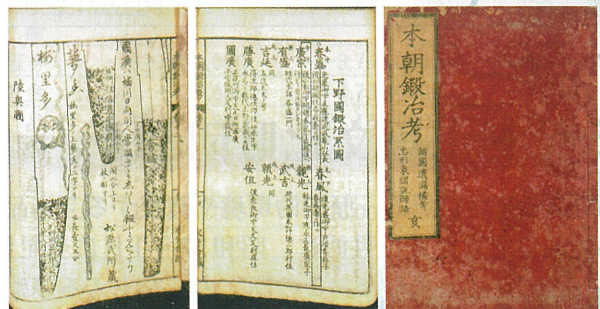
足利城(両崖山城)は、足利市の中央市街地の北西にそびえる両崖山の山頂に本丸を構えた山城でした。(地図の左側、現在は両崖山)

足利城主長尾顕長が北条氏直から拝領した「備前長船長義」の刀の写しを、国広に依頼し1590年に鍛刀されたのが「山姥切国広」です。

国広は、「新刀の祖」と呼ばれる名工で、「山姥切国広」は国広作の天正打といわれる刀の中で、最も優れた一口とされています。また、国広作で布袋の彫刻が特徴的な脇差「布袋国広」も、「山姥切国広」と同年に足利学校で打ったと刻まれている刀です。国広は、日向(宮崎県)の出身で、山伏となって諸国を流浪していましたが、この二振が鍛刀された頃には、足利学校の書籍

「本朝鍛冶考」の下野國鍛冶系圖に足利学校住と記されています。

「山姥切国広」は国重要文化財で、「布袋国広」は国重要美術品となっています。足利ゆかりの国広作の刀二振を市民文化財団で所有し、令和7年2月に開催予定の展示会に向け準備を進めております。



本朝鍛冶考(足利学校蔵)

案内板による 文化財めぐり

本財団では、市内の文化財の案内板を設置しております。

勸農城跡(岩井山城)は、渡良瀬川左岸に接する独立丘陵岩井山にある平山城です。長尾景人が足利庄代官として入城し、足利長尾氏の居城として使われていました。

長林寺は、長尾氏の菩提寺で長尾氏歴代の墓所や田崎草雲の墓地があります。また、銅像大日如来坐像などの貴重な文化財があります。

行道山浄因寺は、葛飾北斎が「足利行道山雲のかけ橋」という版画に描いた清心亭など行道山十勝の景観は栃木県の指定名勝地になっています。

下野國一社八幡宮は、源義家が前九年の役に出陣した際に、戦勝祈願のために創建したと伝えられています。



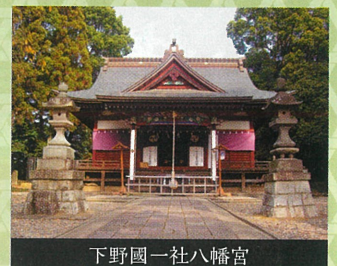
勸農城跡(岩井山城)



長林寺(西宮町)



行道山浄因寺



下野國一社八幡宮

所蔵品

文化財団では、貴重な文化財等の足利市外への散逸を防ぐため、本市にゆかりのある貴重な美術品、文化財等の保護事業を進めています。3月末現在の文化財団の所蔵品は、下表のとおりです。

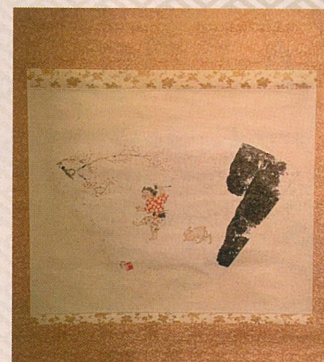
所蔵品種別一覧

種別	員数	取得金額(円)
古文書等	2,219	7,459,890
刀剣・甲冑・銃	12	354,500,000
上記に付随する工芸品等	263	60,515,000
和鏡	41	5,500,000
能面	2	2,000,000
織物等	220	1,700,000
絵画等	81	70,997,000
合計	2,838	502,671,890



田崎草雲

江山漁業図



小杉放庵

金太郎図



川島理一郎

ソリチユード



飯田善國

矢場川風景「秋色」

足利市民文化財団とは

足利市の持つ自然的・歴史的環境や関連する芸術品・文化財等の保護、また芸術・文化の振興、さらに文化施設の整備の促進などを目的に、昭和57年1月に発足し、平成25年4月には、新公益法人制度に基づく公益財団法人の認定を受けました。この間、事業を支える基盤づくりとして募金活動を進め、この預金利子を事業資金として活用しております。今後とも、皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

令和5年度 事業報告 及び 決算諸表承認

令和6年6月14日開催の評議員会で、令和5年度の事業報告及び決算が承認されました。

文化財紹介・啓発事業

●歴史セミナー「足利氏ゆかりの寺社等」を訪ねて

足利氏ゆかりの寺社等の文化財等を見学し、「歴史と文化のまち」の発展に寄与するという目的で開催しました。

- 足利市内コース 2月4日(日) 7ヶ所見学 参加者51名
- 鎌倉市コース 2月18日(日) 4ヶ所見学 参加者88名



足利市内



鎌倉市

地域の芸術・文化活動、文化財保護、自然環境保全活動を行う団体等に対する助成事業

次の事業に助成金を交付しました。

●自然環境保全活動への支援

- ・ゲンジホテル等養殖・保護・啓発事業 主催団体：名草源氏ホテル保存会
- ・カタクリ群生地保護事業 主催団体：名草観光協会カタクリ部会

●足利の文化財等特別公開事業

特別公開事業実行委員会

●足利市民文化祭・優秀作品展

期間 令和5年9月24日～11月26日 令和6年1月13日～1月28日

主催 足利市民文化祭運営協議会 場所 あしかがフラワーパークプラザ、市立美術館他

●各種団体への助成

市内の芸術・文化団体の自主的活動等を支援するため、34団体に対し文化活動の費用の一部を助成しました。

美術品・文化財の収集・貸出事業

足利市にゆかりのある貴重な美術品の保存及び保護を目的とした収集を行いました。

- ・刀銘「九州日向住国廣作 天正十八年庚子貳月吉日平顕長」(号 山姥切国広)購入
- ・刀銘 源景國作「七郎景國」購入(足利学校打)
- ・絵画 田崎草雲作「雁行図」購入

- 所蔵品を、栃木県立博物館、古河歴史博物館、京都府亀岡市文化資料館、「顕神の夢」実行委員会、草雲美術館の展示会へ貸出をしました。



所蔵品展

文化講演会を文化協会と共催で行いました

期日 令和6年2月17日(土)

演題 「上杉憲実と足利学校」

講師 足利学校座主 五味文彦先生

参加者 175名



基本財産及び特定資産の増減及びその残高

文化財団の基本財産及び特定資産の増減及びその残高は次のとおりです。

(単位：円)

科目	令和4年度末残高	令和5年度増減額	令和5年度末残高
基本財産			
投資有価証券	529,653,000	-3,753,000	525,900,000
定期預金	787,000	3,753,000	4,540,000
美術品	117,506,890	385,165,000	502,671,890
小計	647,946,890	385,165,000	1,033,111,890
特定資産			
投資有価証券	297,756,000	20,000,000	317,756,000
定期預金	255,161,816	-220,000,000	35,161,816
小計	552,917,816	-200,000,000	352,917,816
合計	1,200,864,706	185,165,000	1,386,029,706

令和6年度事業予定

本財団の設立趣旨に沿った芸術品・文化財等の保護、芸術・文化活動振興事業などに資産からの運用益金を充てて事業を実施します。

文化財特別展示事業

仮称「山姥切国広展」 展示期間内で、
刀剣鑑賞講演会実施予定
期日 令和7年2月予定 会場 足利市立美術館

美術品・文化財の収集、貸出事業

足利市にゆかりのある画家等の作品や貴重な文化財などの散逸を防ぐため、芸術品や美術品の収集や所蔵品の展示貸出

美術品・文化財の展示事業 所蔵品展

期日 令和7年1月11日～26日
会場 足利市立美術館

文化講演会の開催事業 (足利文化協会との共催)

期日 令和7年2月22日(土)

文化財の紹介・啓発事業

- ◎文化財案内板設置
- ◎文化財写真パネルの作製・貸出

芸術・文化活動団体等の事業に助成します

芸術・文化の振興に寄与すると認められる団体に対し、その事業に必要な費用の一部を審査のうえ助成します。

対象団体

- 次の要件にすべて該当する団体
- ◎足利市内に住所又は活動の本拠を有する団体
- ◎一定の活動実績があり、
広く市民に事業を公開する団体
- ◎団体規約等を有し、代表者が明らかな団体

対象事業

- ◎文化活動の成果発表事業(展覧会、発表会)
- ◎文化活動研修事業(講演会、講座など)
- ◎自然・文化財保護活動事業

※営利、政治及び宗教活動を目的とする事業や参加者を会員等に限定する事業は対象となりません。

所定の助成金申請書を9月30日(月)までに足利市民文化財団事務局(教育委員会事務局文化課内)に提出してください。
(申請書は、ホームページからダウンロードできます。)

問合せ先 足利市民文化財団事務局 ☎20-2229

芸術・文化に関する情報提供

- ・文化財団報の発行
- ・インターネット等の活用



足利市民文化財団HP▶

寄付のお願い

事務局 ☎20-2229

足利市民文化財団の趣旨となる諸事業を実施していくため「足利市文化振興事業寄付金」にご協力をお願いいたします。あしかがフラワーパークプラザ・市立美術館などの施設に設置の募金箱でも寄付が可能です。毎年、皆様から寄付をいただいておりますことに感謝申し上げます。

令和5年度のご寄付
・40,000円 足利文化協会 ・25,575円 設置募金箱
・美術工芸品等266点 84,815,000円 匿名者

編集後記

足利にゆかりのある国広作の名刀「山姥切国広」の「山姥切」の由来は不明とされているがこんな一説もある。長尾顕長から、刀は北条家遺臣の手に渡った。遺臣が妻と信州へ向かう途中、山中の老婆に妻を預け、薬を求め出かけた。遺臣が戻ると、襲いかかる老婆に驚き国広の刀で斬りつけると虚空へ消えていったという。このような話から名がついた。

また、山姥を切った刀のように思われやすいが、「本作長義」の刀自体を山姥切と言い、それを写した刀なので「山姥切国広」と呼んだのではという解釈もあるようだ。長義作の刀にも、「山姥切」という号がついていたという確たる記録

も残っていない。

文化庁の国指定文化財等データベースでも、山姥切のいわれは不明とされている。

「山姥切国広」は、関東大震災で焼失してしまったといわれていたが、その後、奇跡的に無事現存していたのであった。そのような刀が、鍛刀されたこの足利に戻ってきたことが素晴らしい、足利市の歴史を語るうえでの重要なものであり、足利の宝として守っていきたくて考えております。

これからも、財団の趣旨に則り、歴史ある文化事業・活動等を応援してまいります。